


平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	震災復興コミュニティファンドによる地域経済の再生とまちづくり推進事業
対象地域	石川県 輪島市 鳳至町・河井町地区
活動概要	<p>平成19年3月に発生した能登半島地震により輪島市は大きな被害を受けた。国や自治体からの震災復興策は、被災した住宅を対象としており、輪島塗や日本酒の産業基盤装置としての土蔵は対象外である。そのため、土蔵が多数解体されただけでなく、地場産業自体の存続が危ぶまれる状況にあった。公的な支援(の限界)を補完するために、市民活動としてNPO法人が組織され、土蔵の修復を支援してきた。ただ、その活動の財政的な基盤は脆弱であり、かつ土蔵所有者の経済的な余裕はほとんどない。そのような窮状を打開しつつ、地域経済の再生とまちづくりを持続可能なものとするために、コミュニティファンドという仕組みを導入することを試みる。</p>
今年度の主な取組	<p>■コミュニティファンド「土蔵からのプレゼント」(土蔵債券)の仕組み 出資は1口5万円、出資金の5割を損壊した土蔵の修復費用に充て、修復した土蔵で輪島塗や日本酒の土蔵ブランド新商品を製造する。出資金の3割をその製造原価として充て、新商品(販売価格5万円:出資金額同額相当)を「土蔵からのプレゼント」として出資者に贈る。出資金の2割は、NPO法人の手数料ならびに他のまちづくり活動の資金として活用する。(数字は現段階での予定)</p> <p>■本モデル事業で取り組む活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コミュニティファンドや市民債券の先行事例研究と「土蔵からのプレゼント」のシステム構築 ② 協力者募集のパンフレット(依頼状)と出資者に発行する証書類のデザイン検討 ③ コミュニティファンドの告知方法の検討 ④ 修復土蔵で創り出すプレゼント(土蔵ブランド新商品)の商品開発 ⑤ マネジメント手法の検討と社会実験の実施 ⑥ 出資者へのアンケート調査(出資の動機、システムへの信頼性など) ⑦ 考察(コミュニティファンドの汎用性:他の被災地への適用性、本事業の課題など)
活動結果	<p>本モデル事業により、まちづくり活動資金を集めるシステム(土蔵へどうぞ)が構築され、一定の成果を挙げることができた。また、事務作業もルーチンワーク化されたこと、企画商品も製作に入っていること等から、今後も継続的に事業を展開することが可能となっている。</p> <p>今後は、協力金額を小さくする、ネット決済システムを活用するなどシステムを改善しながら、まちづくり活動あるいは左官職人の育成に焦点を絞り込んだ新たなモデルを構築し、まだまだ不足している活動資金を収集していく予定である。</p>
当初予想していなかった効果	<p>いくつかの新聞記事で活動が紹介されたが、阪神淡路大地震の被災地に近いところからの反響が大きかったことは想定外であった。やはり、実際に身近なところで地震の恐怖とそれを克服してきた体験を持っている方は、「共助」の精神が備わっているのだと感じた。</p>

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	震災復興コミュニティファンドによる地域経済の再生とまちづくり推進事業
対象地域	石川県 輪島市 鳳至町・河井町地区
実施状況(写真)	 <p>【写真】 「土蔵へどうぞ」の主旨とシステムをわかりやすく伝えるためのパンフレット</p>
応募団体名	特定非営利活動法人(NPO法人)輪島土蔵文化研究会
リンク	http://wajimareno.exblog.jp
部局/担当者名	副理事長 水野雅男
連絡先	076-263-6371
推薦市町村名	石川県輪島市